

「一流になりなさい。それには、一流だと思い込むことだ」という本からです
人間はよく生きるコツが二つある。強く確信をもって思い続けると実現する。そして与えるものが受けとるものという
ことだ。

ライト兄弟がはじめて空を飛んだ日。1903 年 12 月 17 日。その日、兄弟のフライヤーは、十二馬力のエンジンをうなら
せて、フワリと空に浮かびました。人類何万年の空に飛び立ちたいという思いが、実現した瞬間です。

260 メートル、59 秒。それが、この日の最長の飛行でした。

人類の、飛びたい！その幾億筋の思いが、一点に合流して、フライヤーの翼を持ちあげたのだと、思います。そして
24 年後、リンドバーグはスピリット・オブ・セントルイス号で大西洋横断無着陸飛行に成功。そしてさらに、人類は 66
年後月に到達するのです。夢は一度現実のものとなると、飛躍的に進歩します。大切なのは、夢をもち続けるという
ことです。由樹が突然歩いたのは、六歳と八カ月のことでした。まったく突然のことでした。その夕刻。定期健診から
帰ってきて、リビングの床に座っていた彼が、しきりに腰を持ち上げようとしています。変わった動きだなあと見てい
ました。それは一瞬のことでした。

スッと立つと、スタスタと四、五歩、歩いた、いや歩いたように見えました。静かに妻と顔を見合わせていました。「い
ま、歩いた？」ゆっくりと座った由樹に近づき、声をかけました。ニコニコと笑いながら、彼は腰を持ち上げて立つと、
笑い声をあげて、五歩、六歩。たちまち彼の笑顔が霞んでしまいました。なんと彼は、大騒ぎで泣いたり、声をあげて
は抱きしめる私や妻、父母を尻目に、10 歩も 20 歩も歩くのです。夢の瞬間でした。

「先生の夢はなんですか？」その当ても、よく聞かれました。多くの人に船井先生の教えを語る私にとって、「夢をも
つことが大切なのです。夢には大きいも小さいもない。もっていること、そして強く確信をもって思い続けるのですよ」
そう伝えることも多くありました。すると、先生の夢は？と聞かれます。そのころ、その質問に答えたくない自分がい
ました。「由樹と手をつないで散歩する」それが、夢にまで見る願いだったのです。その夢が、現実に目の前にありま
した。その数日後。由樹は楽しそうに歩き回ります。それまでの遅れが嘘のように、もう走り回ってもいます。しかし、
目の前で何度も転ぶ姿に、少し気持ちが沈みました。転んでは「イ・タ・イ！」と言いながら立ち上がります。そして笑
顔で走っては、転ぶのです。「お父さん、心配ないですよ。由樹君は転びたくて歩きはじめたんだと思いますよ」その
翌日、保育園に由樹を迎えに行ったときに、そのことを保育さんに何気なく話したときです。意外なことを聞き、胸が
熱くなりました。保育園で友達が遊ぶのを、由樹は保育さんと庭の片隅に座って見ていたと言います。

友達が転ぶと、みんなが集まってきて「大丈夫？」と聞きますよね。うん、大丈夫と言って立ち上がると、みんな「エラ
イね！」と拍手をする。「由樹君も、この隅で私たちと一緒に、エライエライと言っては、手をたたいていたんです。由
樹君はきっと転んで立ち上がって、ほめて欲しくて歩きはじめたと、思うんです」転びたくて、歩きはじめた。由樹にと
って、転ぶことが夢だったのです。それは、健常児には思いもつかない夢かもしれません。しかし、その夢の力が由
樹を歩かせた。夢には大きいも小さいもない。もつことが大切なのです。「そうか！！よかったな。佐藤君も、よく頑張
ったね」与えるものが受けとるものなのだよ。船井先生はそう言いながら、心なしか目が潤んでいるように見えました。
「君たちが由樹君の歩くことを信じて、確信をもち続けた。その結果、君たちが、大きな喜びを受けとっているんだ」与
えるものが受けとるもの。いや、いつでも、受け取り続けているのだなと、思いました。不安と喜び。願いと歓び。その
両極が、いつも励ましとなって自らを鍛えてくれている。その実感でもありました。

カッコ内を埋めてください

()は一度現実のものとなると、飛躍的に進歩します。大切なのは、()をもち続けるということです。